

平成 29 年度小さな拠点・地域運営組織 東北ブロック研修会 開催概要

(1) 全体概要

- ・ 日 時：平成 29 年 12 月 26 日（金）13:30～17:00
- ・ 会 場：トラストシティ カンファレンス・仙台「Room2+3」
- ・ 出席者：60 名（主に地方自治体職員が半数、中間支援者等 3 割、地域住民等 2 割）

(2) 東北ブロックの特徴（他ブロックとの差別化）

- ・ 東日本大震災の発生を機に、支援団体が比較的多く形成されている。
- ・ 小さな拠点・地域運営組織の形成数が比較的少なく、検討段階の自治体・地域が多い。
- ・ どのように協働して取り組んでいくべきか悩んでいる自治体・地域が散見される。
 ➡地域運営組織の形成方法の共有と人材の確保・育成を主テーマとした。

(3) プログラム

時間	タイトル	講師
13:30～13:35 (5分)	開会	
13:35～13:50 (15分)	国の取組説明 「小さな拠点・地域運営組織の形成に関する取組」	吉田 誠（内閣府地方創生推進事務局 参事官）
13:50～14:45 (45分)	基調講演「小さな拠点・地域運営組織形成の可能性と課題」	高橋 由和氏（(特) きらりよしじまネットワーク 事務局長）
14:45～15:20 (35分)	事例発表「まるもり型地域運営組織と地域存続のための取り組みについて」	吉澤 武志氏（丸森町筆甫地区振興連絡協議会 事務局長）
15:20～15:30 (10分)	休憩	
15:30～16:55 (85分)	ワークショップ テーマ 「東北の中山間地における地域運営組織形成の課題とその支援の在り方」 ～運営組織に求められる役割と運営の課題とは～	
	全体共有・総評	高橋氏・吉澤氏・吉田参事官
16:55～17:00 (5分)	閉会	

(4) 研修結果

1) 国の取組説明 講師：吉田 誠（内閣府地方創生推進事務局 参事官）
資料のとおり

2) 基調講演 講師：高橋 由和氏（(特) きらりよしじまネットワーク 事務局長）

- ・ 川西町は約 16,000 人の町で、7つの地区から成り立っている。そのうちの一つである吉島地区は、かつて 5,000 人いたが 2,500 人まで減少した。これからは、若年層だけではなく高齢者も減少していくことになる。現時点で財政力指数は 0.24 と厳しいが、さらに自治体を運営できなくなる程の財政難に陥っていくであろう。この現状を地域住民は知らないため、まず具体的に、データで示す必要がある。
- ・ 川西町も今の体制を整えるまでに 10 年かかった。これから取り組もうとする地域も、焦らず土台づくりをすることが重要。
- ・ 若者の流出については、地域住民が力を合わせて行かねばならないが、いかに子育てできる環境を地域に定着させていくのかを考えて行動することが重要。
- ・ 地域自治については、22 の自治会単位では世帯数が少なくなったため、連合自治会にすることで「結」の再生へ繋げている。きらりよしじまはその機能を補完する役割を果たしている。
- ・ 小規模多機能自治の魅力は、しっかり精査できる＝コンパクトにできる点と、1つのテーマに対し複合的＝多様な視点で判断できる点である。（例：「高齢者支援」に対して、福祉・産業・教育のそれぞれの視点から、「買い物支援」「生きがいづくり」「多世代交流」を考えていく。）
- ・ 支援団体・住民ともに、行政主導の下で「わがごと化」を意識させていくことが重要。
- ・ ワークショップについて重要なのは 2 点である。①出口(成果目標)はどこにあるのか見つけるため、まずストーリーを作ること。地域住民は実践が約束されていないと、二度と参加することはないため、その時点で明確にしておくこと。②来てくれたことにどれだけ感謝できるか。ワークショップは、様々な意見と視点が反映されていくので有意義である。知恵の出し合いと住民の繋ぎ合いの場となるようにする。
- ・ 住民側の計画と行政側の計画をすり合わせる事が重要。行政が丁寧に説明する場をもっと設けてほしい。その上で、住民レベルのワークショップを取り入れることが効果的である。これによって、類似事業のすり合わせも行える場となる。
- ・ 若者には、自由な発想で楽しく参加してもらうのも良いことだが、きちんとした手法を教えるなど、鍛えて上げることが有効。
- ・ 地域づくりの継続性は、調達と運用の繰り返しである。学びの先の実践の場もされているのか、よく考えることが重要。



3) 事例発表 講師：吉澤 武志氏（丸森町筆甫地区振興連絡協議会 事務局長）
資料のとおり

4) ワークショップ

- ・「東北の中山間地における地域運営組織形成の課題とその支援の在り方」～運営組織に求められる役割と運営の課題とは～をテーマに、ワークショップを開催。
- ・「行政」と「行政以外（地域・中間支援者）」4班ずつ計8班に分かれ、それぞれテーマを付与（右図「班別に付与したテーマ」参照）。
- ・各班テーマに沿って、各々のセクターに求められる取組と支援策について検討、議論を行った（行政が取り組むべきことは黄、中間支援者が取り組むべきことは青、地域住民が取り組むべきことは赤の附箋に記入）。
- ・検討にあたっては、目標を設定し、その実現に向け必要な取組を具体的に掘り下げていく方法を進めた。
- ・高橋講師と吉澤講師は、各班を回り、質疑対応及び検討内容についてアドバイスを行った。
- ・各班、「地域運営組織の持続経営」について、与えられたテーマの面を確立するにあたって必要な取組と支援策の検討が行われた。中には、地域で抱える課題を整理した上で、必要な取組を検討する班もあった。
- ・テーマの一つ、「資金・金」について、「いかに確保して資金提供するか」議論していた行政職員の班に対し、高橋講師より「補助金の確保の仕方を教えることも重要では」とのアドバイスもあった。また、行政以外の班からは、行政職員に対し、「補助金等、国の支援策に関する情報を、もっと地域に展開してほしい」との要望もあった。
- ・最後に、各班の検討状況を確認した上で、講師より補足説明を行った。
- ・高橋講師からは、本日のワークショップの補足とともに、地域運営組織の形成にあたって必要な要素について、具体事例を示しながら説明がなされた。
- ・吉澤講師からは、地域運営組織に必要な要素や力について、実例に基づいて説明されるとともに、今後の取組みの方向性や、それにあたって必要な意識や取組について説明がなされた。

■主体別「取り組むべきこと」の色分け

行政 ・ 職員	中間 支援	地域 ・ 住民
---------------	--------------	---------------

■班別に付与したテーマ

人材	しくみ・制度	人材
資金・金	思い・ビジョン	資金・金
場所・設備		事業・経験

